

奈良観光もつと便利に

携帯端末で情報提供

国土交通省近畿地方整備局と県は七日、奈良市登大路町の奈良公園で、「奈良自律移動支援プロジェクト」のオープニングセレモニーを開いた。同プロジェクトは、携帯端末を使い、自由な観光をサポートする新しい観光案内システムづくりを目指す。平成二十二年の平城遷都一三〇〇年記念事業に向けた取り組みで、きょう八日から十一月までの毎週日曜と祝日に実証実験を行い、今後のサービス改善につなげる。

無線マーカーやICタグから

現在地など自動で

同システムは、奈良公園と周辺に設置された無線マーカーやICタグから「ユビキタス・コミュニケーション」報を取得する。

歴史的な背景を学びながら、点在する史跡や名所を巡ることで魅力が倍增する古都奈良の観光に適したガイドシステムで、新たな観光客の掘り起こし、観光資源の開発にもつながると成果が期待される。

対応しており、操作は液晶画面に触れて操作するタッチパネル方式。
奈良国立博物館や春日大社など実証エリア内には計二十三カ所に無線マーカーが設置されており、近くを通過すると携帯端末に自動的に現在位置や観光情報などが表示され、その中から知りたい情報を取り出して見られる。また東大寺、興

福寺、近鉄奈良駅前の三カ所に設置されたICタグに携帯端末をかざして読み取ると画像や音声で、見どころやルート、周辺案内、観光情報が得られる。
七日から九日まで、レンタサイクルにICタグを取り付け、ユビキタス・コミュニケーションを使って自転車の貸し出し、返却情報を一元的に管理する実験も併せて行う。



奈良自律移動支援プロジェクトの実証実験開始を祝い、テープカットする柿本知事ら。上：日、奈良市の県庁前奈良公園

この日は、実験に先立つオープニングセレモニーに関係者ら約七十人が出席。柿本善也知事は「携帯端末はハンディで中身の濃い情報が入っている。今後、より利便性を高めるためコンテンツの改良や選択などをしていきたい」とあいさつ。藤本貴也近畿地方整備局長も「最先端技術を使った実証実験が伝統と歴史のある奈良で行われることは意義深い」と語った。

実証実験は、近鉄奈良駅から東大寺までをモデルコースに設定。実験に使う携帯端末は日本語、英語、中国語、韓国語の四方国語に

べての人がいつでも、どこでも、モノや場所などに関するさまざまな情報を利用できる環境をつくることを目的に進めている。平成十六年から実証実験が始まり、現在、奈良を含め全国八カ所で行われている。

県などは実証実験のモニターを募集している。一日四回行われ、各回定員は十人。近鉄奈良駅スタートのコースと奈良市役所駐車場スタートのコースがある。問い合わせは県道路維持課、電話0742(27)7502。